



自他の命を大切にすること

9月10日（水）から16日（火）の1週間は「自殺予防週間」です。令和5・6年度の2年間の小中高生の自殺者数は右の表のとおりです。昨年度は小中高生の自殺が529人で過去最多でした。全体的な自殺者の数は減少傾向なのですが、子どもの自殺は残念ながら増えていきます。大人も子どもも、自らの命を絶つということがあってはなりません。この機会に、子どもたちの命と心を守るために、私たち大人ができることを改めて考えてみたいと思います。

【小中高生の自殺者数】			
	小学生	中学生	高校生
令和6年度	15	163	351
令和5年度	13	153	347

R7.3.28厚生労働省より



子どもたちの自殺の背景には、いじめ、家庭や学校での不安、人間関係の悩み、SNSでのトラブルなど、さまざまな要因があると考えられます。特に、子どもたちはまだ自分の気持ちをうまく言葉にできなかつたり、悩みを「誰にも言えない」と感じてしまったりすることがあります。特に思春期の入口のときには、「みんなと同じでなければならない」、「親には心配をかけたくない」というような思いが強くなる傾向があります。だからこそ、私たち大人が、子どもたちの小さなサインに気付き、耳を傾けることが必要です。

「最近元気がない」「急に口数が減った」「学校に行きたがらない」など、ちょっとした変化が、心のSOSであることもあります。

子どもが悩みを打ち明けてきたときには、否定せず、まずは受け止めることが大切です。「そんなことで悩んでいるの？」ではなく、「話してくれてありがとう」「つらかったね」と共感することで、子どもは「分かってもらえた」と感じ、安心するのではないでしょ



うか。学校でも、命の大切さや困ったときに助けを求めることの必要性を、機会を捉えて伝えていきます。教職員も子どもたちの思いをくみ取るよう努めています。

子どもたちが最も安心できる場所は、やはり家庭です。「あなたは大切な存在だよ」「どんなときも味方だよ」というメッセージを、日々の会話やふれあいの中で伝えていただければと思います。命は、かけがえのないものです。そして、誰しも未来があります。

子どもたちが安心して自分らしく生きていけるよう、家庭と学校で連携しながら支えていきたいと思えます。今後とも、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

自由研究の内容に感心しました

夏休み中、子どもたちが、理科、社会、総合的な学習の時間に関する自由研究に取り組んでいました。こつこつと地道に観察記録をしている研究、関係の施設や専門機関に直接出向いてインタビューをしたり現地に行って調査をしたりしている研究、身近な歴史や世界の平和について考えた研究など多岐に渡っていました。自由研究や新聞などの作品を見て、私も勉強になりました。保護者の方の支援なしにはできないこともたくさんあったはずですが、子どもたちのためにご協力いただき、ありがとうございました。

